# 宝石学会(日本)ニュースレター

第17号 2019年6月

#### 講演会・総会報告

講演会・総会が予定通り開催され無事終了しました。 以下のとおり報告いたします。

○日時 2019 月年 6 月 8 日~9 日 ○場所

- ・ 東洋大学川越校舎 4 号館 (総会・講演会)
- · 東洋大学川越校舎福利厚生棟(懇親会)

#### ○参加者

講演会・総会:93名、

懇親会:54名





講演会・総会会場



講演会会場全景

### 特別講演



「ダイヤモンド高圧合成への試み(東芝グループの 場合)」若槻雅男(筑波大学名誉教授)



「黎明期の気相合成ダイヤモンド研究」 加茂睦和(物質・材料研究機構名誉顧問)

## 一般講演



「中国およびインドにおける宝飾用合成ダイヤモン ドの生産者とその製品」 北脇裕士会員



「わが国で流通している合成ダイヤモンド」 林政彦会員



「ダイヤモンドの蛍光について」小川日出丸会員



「Type II a ピンクダイアモンドにおけるフォトルミネッセンスピーク 498nm および 505nm」 齊藤宏会員



「照射処理された CVD 合成メレダイヤモンドの鑑別」小竹翔子会員



「新しい球状ナノ炭素材料'マリモカーボン'の合成 - 触媒担体へのダイヤモンドの応用 - 」片岡直人会員



「アーサー・コナン・ドイルのブルー・カーバンク ルとホープ・ダイアモンドの関係性について」 中嶋彩乃会員



「天然ダイアモンドは永遠の輝きその真実を求めて 天文学視点による一考察」 貞松隆弥会員



「トパーズの OH-F 置換と屈折率の関係性」 福田千紘会員



「ベトナム Luc Yen 産ルビー、ブルーサファイア: LA-ICP-MS 分析を用いた産地鑑別のアップデート」 江森健太郎会員



「北極圏ウラル産ヒスイの宝石学的特徴」 三浦真会員



「ユーパーライト(Yooperlite)蛍光の起源」 荻原成騎会員



「低品位貴金属に含まれる金属元素の特徴」 西島武志会員



「教材としての宝石活用の試み – ゾル – ゲル法によるオパール合成実験 – 」嶽本あゆみ会員



「宝石の標本作りを利用した結晶化学教育の試み」 勝亦徹会員



「アカサンゴとベニサンゴの硬度測定と拡大検査に よる識別の試み」渥美郁男会員



「宝石珊瑚の微量元素組成」猿渡和子会員



「"バラ色"と称されたテリの良い真珠について」 南條沙也香会員



「真珠のテリ測定とグレーディングへの応用の試 み」矢﨑純子会員



「一般に"スポット"呼ばれる加工キズの分類と劣化に ついての考察」山本亮会員

## 総会内容

- ○2018 年度事業報告
  - ・ 総会・講演会・見学会・特別講演会 2018 年 6 月@富山大学
  - ・ シンポジウム(2018年11月大阪)
  - 学会誌の発行(vol.33 no.1-4)
  - ニュースレターの発行
  - 幹事会・評議員会の実施
- ○決算報告

要旨集記載の通り報告され、監事より承認と報告された。

- ○事業計画(2019 年 4 月~2020 年 3 月)が以下の通り 提案され承認された。
  - 総会・講演会・特別講演会2019 年 6 月@東洋大学
  - 講演会等の行事の実施
  - 勉強会の実施
  - ・ 学会誌の発行
  - ・ ニュースレターの発行
  - ・ HP の改定
  - · 評議員選挙
  - ・ 幹事会・評議委員会の開催
- ○事業計画に関連して、2020 年度の総会・講演会は 新潟県糸魚川市で開催予定
- ○予算が要旨集の通り提案され了承された。
- ○会員情報が要旨集記載の通り報告された。
- ○情報について次の報告があった。
  - ・ 宝石学会誌のバックナンバーと口頭発表の講演要旨は、それぞれ電子化され、科学技術情報発信・流通総合システム(J-stage)でオープンアクセス(無料)として公開されており、当会ホームページ(HP)にリンクが貼られている。

また、宝石学会誌の最新号は、発行してから2年間、会員がIDとPWを入力して閲覧できるようになっている。これらは毎年変更するので、必要な方は事務局に連絡すること。

なお、宝石学会誌と講演要旨の電子化に伴い、これまでは情報担当者(林)が J-stage へ直接アップロードを行っていたが、昨年より、ジェイピーコーポレーション(東京)に依頼している。学会誌については、例えば30件(表紙・論文や宝石ニュースなどの数)の場合で63,000円(1件当たり2,100円)、講演要旨は22件61,600円(1件当たり2,800円)の経費がかかる。ただし、学会誌が発行され、閲覧されると、著作権料が入る仕組みになっていて、現在ではHPの維持費程度の入金がある。

HPが6月末から新しくなる。アドレスは、https://www.gemmology.jp/で, 暫くは旧アドレスから自動的にリンクが貼られる。新しいHPはスマホにも対応する。維持はこれまでどおり、エディケーションラボ(つくば市)に依頼しており、年間の維持費はこれまでとほぼ同額の3万円。(\*金額表示は税抜)

#### ○懇親会



懇親会風景

#### 所感

今年は東洋大学での開催でしたが、当学会評議員でもある東洋大学の勝亦先生に大変お世話になりました。東洋大学工業技術研究所の協力もあり、会場の利用関連でずいぶん便宜をはかっていただきました。会場にはプレゼン設備が完備されており、大きさも当学会の規模にぴったりでした。また、その隣には十分な受付スペースとなる部屋があり、当地の川越の案内や見事な人工鉱物サンプルも展示していただきました。さらに持ち帰り用の宝石標本やお茶のサービスもあり、本当に至れり尽くせりでした。また、工業技術研究所長の川口英夫教授、理工学部長の石田哲朗教授も出席して歓迎の挨拶をいただき大学全体での支援に感謝です。

総会については、別記のように原案通り承認されました。ご確認お願いします。

講演会では、「合成ダイヤモンドの日の出」というテーマで、日本の合成ダイヤモンド研究のパイオニアでレジェンドでもある、若槻先生、加茂先生の特別講演がありました。合成ダイヤモンドの夜明け前の状況を含め、ダイヤモンド合成成功に至る過程が紹介され、当事者からでないと聞けない貴重なお話でした。

一般講演では、合成ダイヤモンドへの注目が一段と高まっている今、宝石用合成ダイヤモンドの生産状況、鑑別に関わる発表などがあり、合成ダイヤモンドの現状の確認ができました。合成と天然との鑑別技術のさらなる発展がのぞまれます。

ダイヤモンド以外でも各種岩石鉱物、サンゴ、真珠について、継続的な研究成果を聞いて理解を深めることができ、産地鑑別には社会問題にも関わる意義を認識しました。ほかに、貴金属の成分分析の発表もあり、貴金属も当学会でもカバーすべき大事なテーマだと気づきました。

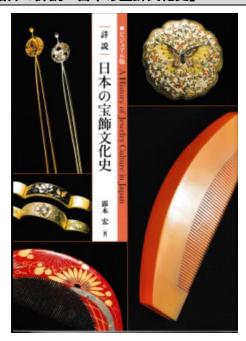
そのほか、小説についての発表を聞いて、文系の分野(アート、歴史、文学、経済)も、宝石について多面的に理解を深めることができ、有意義だと思いまし

た。

また、宝石を教育に利用する事例の発表も2件あり、 これも当学会の幅広い展開となると思われます。

追記:学会終了後、新宿で開催中の第32回東京国際ミネラルフェアに立ち寄りました。学会で取り上げられた、気相合成ダイヤモンドや高圧合成ダイヤモンドが販売されていました。また、ユーパーライトは売り切れという話も耳に入りました。 (神田久生)

#### 書籍紹介「詳説 日本の宝飾文化史」



最近、本書を目にする機会を得た。日本宝飾クラフト学院理事長の露木宏氏の著書。宝石の意味や価値を考えるのに、宝飾は切っても切れないのでこの図書はとても参考になりそうだ。

本書は西洋の装身具が日本に入ってきた安土桃山 時代(1600 年頃)から明治時代(1910 年頃)までを 対象としている。

3 段組で 200 頁もある大部のため、通読にも時間がかかるが、パラパラめくって、たくさんの画像を眺めるだけでも楽しい。

私は、宝飾品として使われている材料に興味があり、本書をめくりながらその材料に注目した。江戸時代はべっ甲やサンゴが多く、ダイヤモンドなど今でいう宝石は明治以降のようだ。真珠やこはくも新しい。日本と西洋での宝物観が大きく違っていた、とある。西洋では宝石は宝物だったのに対して、日本ではそれは小石に過ぎず、古い茶釜や茶わんが宝物だった。このような過去の価値観をみて見ると、現在の宝石の鑑別・鑑定の基準も時とともに変わっていくのだろうと改めて感じた。(神田久生)

#### 新刊紹介

宝石には直接関係しないが、鉱物に関する啓蒙書と でも言うべき書籍が相次いで刊行されたので紹介す る.

購入を希望される方は,書店や下記の発行所にお問 合せください.

1)「日本の国石『ひすい』-バラエティーに富んだ鉱物の国-」成山堂書店刊



日本鉱物科学会で「ひすい」(翡翠輝石)を"国の石"と選定した経緯やひすい以外の鉱物や岩石, 琥珀などの最新情報が紹介されている. 内容が盛りだくさんなので, 目次や索引から興味があるページだけを選んで読むという使い方ができる.

・書 名:日本の国石「ひすい」-バラエティーに富んだ鉱物の国-

・監修:日本鉱物科学会

・編 著:十山明

・発 行 所:成山堂書店 Tel.03-3357-5861

(https://www.seizando.co.jp/book/7080/)

・価格:3,000円(税別)(A5判・240頁)

#### 2)「鉱物-石への探求がもたらす文明と文化の発展

#### -」大阪大学出版会刊



石と人類との関りから鉱物標本,特に大阪大学所蔵のものを例に挙げて紹介している.鉱物種についての説明もあるが,本の中で紹介されている鉱物名は必ずしも鉱物種名ではない.一般的な鉱物の入門書としてよいのではないかと思われる.

・書 名:鉱物-石への探求がもたらす文明と文化の 発展-

・編 著: 石橋 隆, 澤田 操, 伊藤 謙
・発 行 所: 大阪大学出版 Tel.06-6877-1614
(http://www.osaka-up.or.jp/books/ISBN978-4-87259-526-0.html)

・価格: 2,400円(税別)(A4 判・98 頁) (林 政彦)

本ニュースレターの著作権は本学会が所有しますが、著名入り 記事の執筆責任はそれぞれの著者にあります。

宝石学会(日本) ニュースレター(第 17 号) 2019 年 6 月 発行

編 集:神田久生、渥美郁男、江森健太郎、北脇裕士、高橋泰、林政彦、古屋正貴、矢崎純子、山本亮

発 行:宝石学会(日本)

〒110-0005

東京都台東区上野 3-20-8 小島ビル 6階